



題字 ㊤ 末吉太郎



ご 挨拶

近畿支部長 渡辺卓司

富山薬窓会近畿支部の皆さまにはつつがなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。今年4月14、16日と熊本で震度7の地震があり、5月になっても引き続き、熊本県と大分県で余震が収まっていない状況に心痛みます。

さて、昨年の総会では、61名の方々にお集りいただきました。首都圏支部からは、道見 茂樹 幹事長(66回)がご出席くださいました。場所は、昨年と同じ阪急ターミナルスクエアでした。遠久編集長の 石田 貢 様(58回)も富山から参加されました。同窓生の小野薬品工業の 笹村 崇 先生(82回)と、神戸学院大学の 小野坂 敏見 先生(57回)に話題を提供していただきました。また、富山大学 薬学部 副学部長の 酒井 秀紀 先生(72回)には本部の報告をお話しいただきました。

今年の総会では、富山大学 大学院の 恒枝 宏史 先生(76回)に「脳機能を活かした糖尿病の新しい治療戦略」、また神戸学院大学の津田 裕子 先生(62回)に「何故、いまプラスミン阻害剤なのか」という話題を提供していただきます。さらに 富山大学 大学院の 井上 将彦 先生に「本部の報告など」をお話しいただきます。恒例により講演の内容を短くまとめてもらいましたので、ご参照下さい。

女性だけの集い芍薬会は13回目を迎えました。今回は少し趣を変え、1月の姫路城に19名が参加され、寒いけれども晴天に恵まれ、揚げたての天ぷらを堪能され

たようです。今回は京都を予定されています。近畿遠久朵ゴルフは春、秋、2回の例会に加え、仰岳会との交流会も定着しています。芍薬会・近畿遠久朵ゴルフの詳細はこの冊子の後半に詳細があります。みなさま、ふるってご参加ください。

近畿支部では 2005年から月例会「山金会」が発足しました。この会は近畿支部の堀端基金から補助をいただいています。毎月、第3金曜日に、新阪急ホテルB2「ビーツ」に、皆さんが集まります。お陰さまで近畿支部のサロンとしてすっかり定着し、今年3月で135回を迎えました。最近では関西遠久朵寮々生会の年2回の集まりに、いつもご利用いただいています。また定期的に同期会で集まっておられる方々もあります。しかし、昨年の総会でも話が出ましたが、堀端基金で成り立ってきたこの会も、今後のことを考えなければいけない時期にきています。新しい試みとして大忘年会を始めています。今年も11月に大忘年会を計画していますのでこちらも、ふるってご参加下さい。

ところで、近畿支部の事務局を移転しましたが、今年も[振込取扱票]の更新に思いのほか時間がかかってしまい、皆様に総会の案内郵送が遅れましたことを、まず深くお詫びいたします。昨年近畿支部では年会費を1,000円以上といたしました。総会では4名の方に7,000円、総会に参加されなかった方からも16名の方から24,000円を頂きました。お礼と感謝を申し上げます。また今年も、会費収入を少しでも増やすため、近畿支部に一人でも多く入会していただくべく、今年も謝恩会に私と安居輝人さん(76回)が富山に行き、近畿支部への新入会への勧誘をしました。

いずれにしても、薬窓会近畿支部の皆様方が、忌憚なく情報交換を図ることができ、また薬窓会会員としてお互い広く友好を深めていただける場を作れるよう強く願っています。いろいろ不備もあるとは思いますが、役員一同協力し、よりよい活動に向けていきたいので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

(59回卒)

E-mail: watanabe@peptide.co.jp

脳機能を活かした糖尿病の新しい治療戦略

富山大学大学院 医学薬学研究所 病態制御薬理学 准教授 ⑦⑥ 恒枝 宏史

「規則正しい生活リズムを守ることは病気を防ぐために重要」ということは誰もが知っていることですが、その背景にはどのようなサイエンスが存在するのでしょうか。私達の研究室では「脳と糖尿病」の観点からその謎の解明に挑んでいます。

今日、肥満や2型糖尿病が世界的規模で蔓延する事態に陥っています。人類の長い歴史から見ると、現代のような飽食や運動不足の状況下で生活するような時代は皆無であり、体が十分に対応できないのは仕方のないことです。さらに近年では、24時間社会化と呼ばれるような、昼夜を問わないライフスタイルも一般的になっており、生活リズムが乱れる状況がさらに拡大しています。

本来、生体はエネルギーバランスを維持するため、覚醒時には摂食によってエネルギーを摂取し、睡眠時～起床時には肝臓の糖産生によってエネルギーを補給することで低血糖に陥ることを防いでいます。すなわち、血糖調節の機序は睡眠・覚醒サイクルに従って日周性に变化します。このような日内変動をスムーズに行うため、脳を中心とした臓器連関機構が存在します。しかし、その実体は不明です。

そこで私達は、覚醒状態を維持する役割を担う視床下部オレキシン系に注目し、現在、睡眠・覚醒リズムと糖代謝との関係を検証しています。その結果、オレキシン欠損マウスでは肝糖産生の増減リズムが破綻し、血糖値の日内変動が消失することを認めました。このような状態が長期間続くと、やがて肝臓の小胞体ストレスが増加し、インスリン抵抗性

を誘発することが分かりました。また、オレキシンが欠損すると、高脂肪食負荷時において過度の肥満が誘発されることや、心理的ストレス負荷時において過度のインスリン抵抗性が誘発されることを認めました。このように、内因性のオレキシンは加齢、肥満、およびうつに伴うインスリン抵抗性の防御因子であることを明らかにしました。そこで、オレキシン作用を増幅すれば抗糖尿病効果が得られるか検証しました。オレキシンは覚醒・睡眠サイクルに合わせて日内変動しているため、そのリズムに合わせてオレキシンやオレキシン系活性化薬を2型糖尿病マウスに投与したところ、血糖値の日内リズムが改善し、血糖降下作用が認められました。一方、内因性オレキシン分泌リズムに合致しない投与では改善効果は得られませんでした。

これらの研究成果より、視床下部オレキシン系は睡眠・覚醒、摂食、および糖代謝の日内リズムを統合する役割を果たしていると考えられます(図)。また、オレキシン系を標的として覚醒・睡眠リズムを強化することにより、糖代謝のリズムが改善し、2型糖尿病病態が改善されることが動物実験において示されました。適切な睡眠・覚醒サイクルは日周性のオレキシン作用の形成に必須です。「規則正しい生活」による糖代謝異常の防止にはこのような脳機能の活躍があるようです。今後、糖尿病の時間治療という新しい治療概念の創出を目指し、研究をさらに展開したいと考えております。

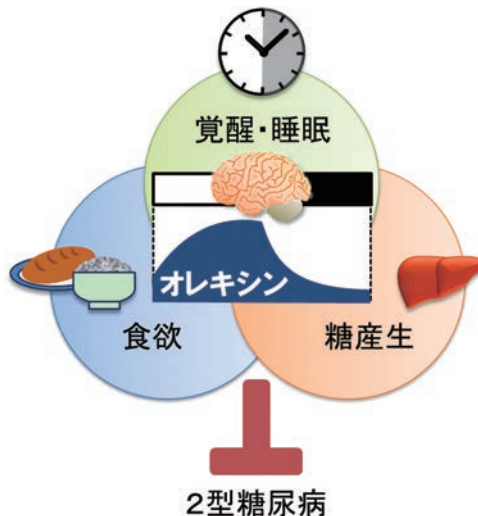


図. 視床下部オレキシン系による生体リズムの調節とその意義

何故、いまプラスミン阻害剤なのか

神戸学院大学 薬学部 分子薬学部門 教授 ⑥津田 裕子

薬の発見は、長い時間をかけた「偶然」の発見をもとになされた時代から、化合物の構造とその標的との相互作用の推測と検証にもとづき「必然」的になされる時代になりました。低分子医薬品が標的としている生体内分子としてはタンパク質が圧倒的に

多く、医薬品の標的分子となっているタンパク質を機能別に分類すると、酵素、Gタンパク質共役型受容体、イオンチャネル、トランスポーター、核内受容体、となります(2002年)。臨床で利用される医薬品の中で酵素阻害剤の占める割合は高く、酵素

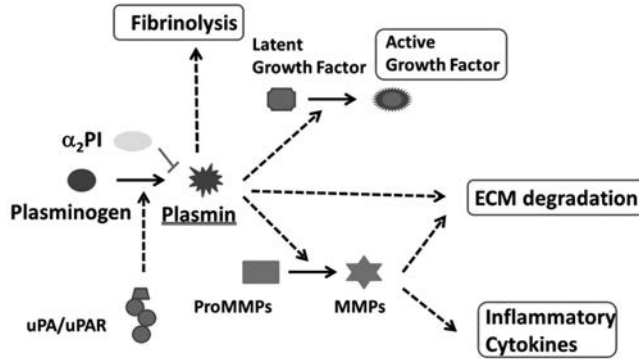


図1. プラスミン(Plm)の機能の多様性

阻害剤は酵素活性の異常亢進あるいは低下に起因する病態を改善する医薬品の有力な候補として、医薬品開発が進められてきました。

プラスミン(Plm)はトリプシン様酵素の一種で、平常時は不活性型のプラスミノゲン(Plg)として存在しています。活性化されたPlmは、血管に生じたフィブリン塊を分解し、血管から血栓を除去する働きをします。Plmの活性が異常亢進すると、多量出血を引き起こし、止血剤としてはPlm阻害剤のトラネキサム酸(Tra)が使用されています。このように、Plmは線溶系の中心的酵素で、その阻害剤は止血剤として臨床的に使用されています。しかし、Plmはフィブリン塊ばかりではなく、マトリックスメタロプロテアーゼ(MMPs)のように細胞外マトリックス(ECM)に存在する種々タンパク質の分解にも関わり、ガンの浸潤や転移、血管新生のような病態、及び炎症性疾患の発症にも関与していると言われています(図1)。

私達は、次に述べる順天堂大学医学部の服部准教授との共同研究による実験例から、Plm阻害剤を炎症性疾患の治療へ展開することが可能であると考え、抗炎症剤を目指したPlm阻害剤の探索を進めています。

その実験において、急性移植片対宿主疾患(GVHD)モデルマウスや潰瘍性大腸炎モデルマウスにおけるPlm阻害剤の効果を検討しました。GVHDは臓器移植に伴う合併症の一つであり、ド

ナーの移植片が免疫応答により臓器受給者の臓器を攻撃することにより起こる症状だと考えられています。急性GVHDモデルマウスを作製しPlm阻害剤を投与すると21日後で80%以上の生存率を示し、コントロール群では21日後には生存率が0%であったのと比較すると、顕著な生存率の改善がみられました。さらに大腸炎モデルマウスを用いて、①コントロール群と比べ循環血液中のPlm濃度が上昇すること、Plm阻害剤を投与すると②大腸炎の進展が抑制されること、③好中球やマクロファージが減少すること、さらに④炎症性サイトカインやケモカインが減少することを明らかにしました。

ここで用いたPlm阻害剤は、われわれが開発したものでYO-2と呼ばれ、Tra(P1)、ピコリルチロシン(P2)、オクチルアミン(P'1)の3つの要素から構成されています(図2)。その3つの要素の構造を最適化し、より強力で選択性に富んだ化合物を得ることを試みていますので、本講演で紹介いたします。

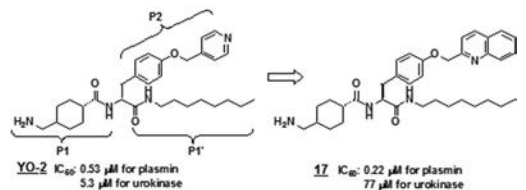


図2. プラスミン阻害剤の最適化

昭和28～41年頃迄の 富山薬窓会の経過に就いて。 ④ 人見 五郎

昭和28年に、富山大学薬学部第1回卒の卒業生と、「官立富山薬専」の卒業生で構成されている現在の「富山薬窓会」に、大学卒業の同窓生が入会参加して、爾来、薬専卒と大学卒の同窓と一緒に薬窓会を構成・運営しています。

当時、道修町の製薬メーカーの勤務薬剤師・開業の薬剤師・病院勤務の薬剤師・公務員として勤務の薬剤師と夫々勤務の種類で、極めて多岐にわたっての薬剤師が、一年一度の総会を支部長・末吉大阪府薬務課長の音頭取りで市内の然るべき会場で開催されていました。

伝統ある富山薬専の卒業生は、各職場で・重役・部長・等 責任ある立場で活躍の先輩が多数で、大学卒の新社会人である私達にとっては、酒席で酌をする若輩で全く面白くなく、出席者が大変に少なかったのが実情でした。

混沌とした戦後の大阪で、新社会人として働く新卒者たちは、懸命の毎日でした。

昭和28年大学卒・学卒1回から～昭和30年大学卒・学卒3回の卒業生が、当時の岩瀬浜の「遠久朶寮」で共に青春を過ごした仲間が集まり、大学卒の懇親会を別途開催した。此の会食が大いに盛り上がり、当時の道頓堀に出来た「アルバイト料亭」で楽しい一時を過ごしました。

やがて此の懇親の会食が・開局薬剤師の先輩から、・・大学卒の連中が集まって楽しい会食をしたと息子が父親に報告があったと・・薬務課長の末吉先輩に連絡がもたらされ・・結果・40回生の私が、薬務課長から呼び出され、詳しく会合の実態を設問されました。

大学卒と薬専卒と一緒に「薬窓会」には欠席の若い人も、学卒の会には多数出席している理由を申し述べました。薬窓会の折には若輩は先輩に酌に廻り、会費が同じなのに全く楽しめない旨を率直に進言しました。末吉支部長も率直な若手の意見を聞き入れられて、御賛同を頂きこれを機会に会のお世話を若手の方が中心で実行する様に申し渡されました。

当時、阪大薬学部の新卒が昭和30年に卒業が第一回で、蛭池にあった「私立の大阪薬専」の同窓会とは・立場が違くと国立大阪大学薬学部として、大阪薬専の同窓会とは、彼らの同窓会が明確に分離されていたのです。

富山は、薬専卒も大学卒も共に楽しく且つ円満に一緒に同窓生として、運営される様に基礎が此の時に明確に確立されたと記憶しています。此の結果末吉支部長のもとで、「富山薬窓会大阪支部」が今迄通り以上に、先輩と後輩が一同に集う楽しい「薬窓会」として継続しました。

やがて、会の世話を大学卒に引き継がせたいと

考えられていた末吉先輩から、学卒の幹事長を・・との要望があり、相談の結果 任期は5年と決めて藤沢薬品の 奥田 朗 氏 (41回) にお願ひ致しました。

薬窓会の運営に当たっては、高給取りの大先輩からの寄付は歓迎・会員は5年に一度の積立基金として1人¥10,000を集め、多く貯まったら3分法で・現金・株式・公債と「分散貯蓄」をして将来は会費無しで、金利で経費を賄おうと話合いました。学卒42回までの人が、その折になけなしの一万円を寄付した筈です。

この頃の学卒初任給は¥12,000 位でした。

集めた会費は、基金として堀端商店の奥村氏に保管をお願いしたと記憶しています。製薬メーカーに勤務の学卒は、若いだけに転勤も多くなり、大阪に定住の人材が限られていました。

私も、昭和41年 博多に転勤し大阪を離れました。

福岡から東京と転勤を重ねて、大阪に戻ったのは昭和56年で、幹事長がやっぱり奥田氏でした。奥田氏からは次の世話人が決まらず、困っていると訴えて、メルク大阪所長の森野氏に幹事長をお願いして、引き受けて貰いました。

時代の流れも早く、市場の金利の変動も激しく、当初考えていた以上に金利が低下して、金利だけでの基金の運営に目途が立たなくなっていました。

困っていた矢先に、堀端先輩から高額の基金の御寄付を賜り「堀端基金」が誕生、一息付けられたのが、今日の運営の基礎です。

然し乍ら市場の景気は相変わらずの低調で、金利を期待する事は到底出来ない状況は変わりません。

昭和41年以降の運営は、私はよく知らないので、46回生の森野君他に資料を作って頂きたいと思います。

支部長と幹事長は昭和33年頃、

末吉 太郎 支部長 奥田 朗 幹事長

橋本 左内 支部長 奥田 朗 幹事長

昭和56年頃には 堀端 栄之助 支部長 森野 行雄 幹事長と推移したと聞いています。昭和41年以降の推移は、森野氏に執筆を頼んで下さい。

先日・平成27年の忘年会が新阪急ホテルにて開催された折に、渡辺支部長から62年前の「薬窓会」の裏話を残して欲しいと・・投稿の命を受け一筆記憶を辿ってしたためました。昔々の事ですので、不正確な記憶は御容赦願ひたい。

この機会に高齢の諸先輩各位には、「薬窓会大阪支部」の若手の運営に少しでも資金の御援助をして頂き、益々の会の発展に御助力をお願い致します。

戦後の復興時代、富山薬窓会の変遷の一端を記録し、後世の資料に参考保管して頂ければ幸いです。

2015年度 獅子会 ④ 川上 四朗

44回(1957年)に卒業した同級会を、44(シジ)にちなんで獅子会と呼んでいる。卒業してから60年近く経った。杜甫の句に「人生70古来稀なり」とある。同級生はみな80歳を超えた。振り返ってみるとあっという間のような気がする。最近の事については時間を感じずが、遠い過去のことは一瞬のことに思えるのだ。そして「少年は老い易く学は成りがたし」を実感している。勉強、仕事、趣味、音楽、絵画、運動など何でも上達するには努力が必要だ。だが「年を取る」のは自分の意思とは無関係で努力はいらない。

2015年度の獅子会が福島県の猪苗代で行われたので、その様子をご紹介します。出席者は当初の予定では21名でしたが、最終的には18名(佐藤晴夫、夫人含む)となりました。みなが元気の頃は40～50人集まったのに。出席できなかった理由は残念ながら物故者23名をはじめ、体調不良、意欲低下、家庭の事情などだ。自然の摂理、天命と思うようにしている。お互い健康であって欲しいと願っています。

5月10日(日)

5月10日13時45分JR郡山駅前に集合、ホテル・リステルの車で出発。まずホテル経由猪苗代の浅井君の酒蔵改装記念館に行きました。この建物は日本建築学会の各章を受賞し、建築の専門家が時々見学に来られるそうです。

改装した酒蔵に入って、その独特の雰囲気にとびつかりました。内部は木造の魅力がたっぷり。日本的な古風さと近代的なセンスの調和が見事です。材質は



あくまでも木材でタイルや合板などは使われていない。近頃の城は鉄筋コンクリート造りで興ざめすることが多いが、それに比べてとても素晴らしいと思った。ふと上を見て荒削りの大きな樫の梁に圧倒された。この梁は昔、城にあった材木を移築したものだそうです。酒蔵にこのような凄い材木の必要は無いはずですが、当時の浅井家は何か特別な意図があっ

て酒蔵を造ったのでしょうか。そして東日本大震災で一部が破壊したので、浅井君が改装しました。彼は何と15代当主とのこと。そういって見れば当主の風格がある。館内の説明は15代当主さま、恐れ多くもつたいない。



一階の大広間中央に恩師横田嘉右門先生の胸像が置かれていて、その前で記念の集合写真を撮った。どうして、ここに胸像があるのだろうか、横田先生は会津若松の出身で浅井君の高校の先輩。富山薬専時代から1969年まで25年間在職、薬学部長、学長も勤められた。私たちは、先生には特別な思いがある。他界された後、遺徳を偲び胸像が五福キャンパスに建てられた。作成過程で造られる原型の胸像があります。その原型胸像の保管を郷里の浅井君が依頼され、彼の酒蔵に大事に飾られているという次第。従って五福キャンパスの胸像と同じものです。



一階の大広間ではミニ・コンサートが行われるとのこと。バイオリン、フルート、チェロなどが奏でる優しい音色にびったりの会場だと思った。西の階段を上がって2階の大広間は、ここも特徴があって斬新で奇抜。ともすれば、いやらしさが出てしまいがちですが、ここは優しい落ち着いた雰囲気、茶の湯、琴や三味線、お花の稽古などにとても良く似合うのだろう。

奥様は風邪にもかかわらず、いろいろお世話戴き有難うございました。

午後6時からホテルで獅子会の宴会、まず今回の世話をしてくれた浅井君の挨拶、物故者23名に対して黙祷。昨年だけでも室谷弘、野村敬一、岡田和造君の3人が亡くなった。人と生まれたら必ず体験させられる事と分かっている、そしてこれが天命

だとしても悲しい。

佐藤晴夫君の音頭で乾杯。そのあと一人ずつマイクを持って近況報告、「私は話すことが無い。話すのが下手、しゃべらない」と言っていた林君、マイクを持ったら止まらない。「しゃべらないと言ったのでは」と言ったらやっと終わった。もっとしゃべりたそうだった。

次は、高木君の司会で来年度の獅子会予定などを検討。なかなか結論に達せず、改めて二次会の席で決めることにした。ホテルの部屋で2次会、その結果来年度は富山か金沢で、世話人は中川好枝、今井道子さん。時期は今年と同じく5月の連休明けに決まりました。

5月11日(月)

9時、ホテルの小型バスで出発。裏磐梯ビジターセンター → 五色沼 → 野口英世記念館 → ホテル・リステルで昼食 → 猪苗代駅で解散(午後1時半)。

5月の裏磐梯はまだ早春、木の葉の色がとても美しい。柔らかな黄色の若葉、緑の若葉、そして濃い緑と木の葉が画く自然の美しさに感動。都会では味わうことの出来ない心地よい爽やかな空気に触れて、自然に躍動的な気分になった。雄大な磐梯山をバックに写真を撮った。5月晴れの裏磐梯に連れてきて貰って本当によかった。すでに80歳以上の皆さん、晴れやかで浮き浮きした様子が伺えた。この気分は年ではない今が青春。そんな気分させてもらった。

五色沼は時間の関係で入り口の沼だけの観光だったが、向かいに磐梯山を望み沼のコバルトブルーが特別美しかった。ここでも写真をいっぱい撮った。

野口英世記念館で彼の足跡と遺品を見て、改めて細菌学の偉大な研究者であった事を認識した。黄熱病や梅毒の研究で3回もノーベル賞候補に挙がったが、研究中の



黄熱病に自身も罹患して51歳の若さで亡くなった。もっと長生きされていたら、「寄生虫病の新たな治療に関する発見」でノーベル賞を受賞された大村智(81)先生のように受賞されたのではと思った。1915年に英世は渡米してから15年ぶりに、ただの一度だけ帰国したとの事だ。

ホテル・リステルで昼食の後、ホテルのバスで猪苗代駅へ、ここで解散。卒業から何年経っても、例えば学生時代に戻ることが出来る。青春の気分で過ごした楽しい2日間が終わった。年を重ねることは、体験とか経験が更に増すことになる。何かの役に立つのではないか前向きに考えよう。

世話人を引き受けてくれた浅井君、大変お世話になりました。



米国留学 ⑨ 森 貴大(旧姓:家原)

アメリカに留学してから5ヶ月が経ちました。毎日が新しい発見と驚きで溢れ、充実した日々を過ごしています。今回は、私がアメリカに留学した背景とアメリカでの生活について、述べさせて頂きたいと思います。

新薬創出の成功確率は約3万分の1であると言われており、今後この値はさらに低下することが予想されています。この状況を打破するために、多く

の製薬企業は、近年注目されている「オープンイノベーション」と呼ばれる方法を取り入れています。アカデミアやバイオベンチャーなどと連携することで最先端の知見や技術を取り入れ、効率的かつスピーディーに医薬品開発を進めています。私が勤める小野薬品工業株式会社において、これまでに開発した医薬品の中には大学や他企業との共同研究から生まれたものが多く存在しています。オープンイノベ



ションに対する取り組みはますます加速しており、私が留学した理由も、社外の研究機関が有する科学と経験を積極的に医薬品開発に適用するためです。この社外との連携から得られた成果が花開き、新薬が世界中の患者さんの元に届くことを願っています。

さて、アメリカでの楽しみといえば、現地の文化に触れることと旅行です。私が赴任しているテネシー州は、北アメリカ大陸の南部にある大自然に囲まれた地であり、人情味あふれる方が多く、どこか富山

に似たような雰囲気が感じられます。こちらに赴任してから、日本とは一味違うハロウィンとクリスマス、アメリカならではの感謝祭、Black Friday、復活祭などを体験しました。一番印象に残っているのは、感謝祭です。七面鳥の丸焼きを食べる風習があり、私も半日以上かけてオープンで焼き、美味しくいただきました。また、旅行先では、アメリカの醍醐味である大自然に触れるとともに、歴史的・文化的な名所を巡り、見識を深めています。最後に、旅行先で感銘を受けた、ヘレン・ケラーの名言をひとつ紹介したいと思います。

— *Life is either a daring adventure or nothing* —

「人生は怖れを知らぬ冒険か、それとも無かのどちらかである」と訳されます。解釈は人それぞれかと思いますが、私の解釈としては「挑戦なくして得るものなし」ということです。私にとって、アメリカ留学は大きなチャレンジですが、日本にいたときは異なる経験ができており、これからの人生の貴重な財産になると思っています。今後も様々なことにチャレンジし、一回り二回り大きくなりたいと思います。

臨床開発モニターの仕事 ⑨ 猪ノ口 裕二



大阪の地で、とある会社にて「臨床開発モニター」として働き始めて、早5年目に突入いたしました。人生はまだまだ長いですが、富山大学 薬学部での6年間とはまた色の異なる様々な濃い経験を重ねてきたなど少ししみじみ感じております。現在、様々な仕事がある中「自分に合うな」と思える仕事に出会えることができたことは素敵なことだと実感しています。そこで、大変勝手かも知れませんが、「臨床開発モニター」のやりがいや魅力、反対に大変だと感じていること等をこの機会にお伝えしてみたいと思います。

一言に「薬剤開発に携わる職業につきたい!」と言っても、その中には様々な職種があります。その中で「臨床開発モニター」について「どういったことをしているのだろうか?」と興味を持って頂ける一つのきっかけになりましたら、幸いです。

①臨床開発モニターのやりがいや魅力

医師から「この領域では治療薬がない為、ドク

ター含め、患者さんもすごく期待している」とお話されたことがあります。この時に、非常にうれしく感じ、がんばろう!と思えたことを、今でも覚えています。期待されている薬剤を世に送り届け、社会に貢献できる仕事に携わっていると実感できることは、臨床開発モニターの大きなやりがいの内の一つだと思います。また臨床の専門家である医師に対して、臨床開発モニターは治験及び治験薬の専門家です。治験/治験薬の専門家として意見を求められ、対等にディスカッションできることは非常にやりがいがあると感じています。

②臨床開発モニターの大変だと感じる点

「相手に合わせた適切な伝え方を行うこと」が大切であり、かつ難しいことだと感じています。治験を実施して頂くのは医師です。しかし治験は、有効性や安全性の評価が定まっていない薬の候補を患者さんに使用して頂く「試験」の側面がある為、実際の臨床の現場とは異なる検査やルールが定められています。その為、治験と実臨床の現場との違いから、医師と協議が必要となることが多々あります。その時、同じ伝え方をしても、医師によっては理解を得ることができず、治験を円滑に進めることができないこともあります。適切な「伝え方」をその都度、

考え抜くことは、円滑に業務を進める上で、非常に大切なことだと、これまでの社会人経験で学ばせて頂きました。

③大学時代の経験が「臨床開発モニター」として働く上で活かしたこと

どの学生も通る道だと思いますが「論文をパワーポイントにまとめて発表すること（プレゼンテーション）」この反復作業により「限られた時間で重要なことをわかりやすく伝える」という観点において、多くのことを学べたと感じています。どのような仕事も業務上で関わる相手に対して、要点を押さえ話すことは大切だと思います。臨床開発モニター業務に焦点を当てた場合、特に業務上で関わる相手は、治験を担当する医師です。一般的に治験を担当する医師は多忙です。そのような医師に対して、伝えるべき治験の要点を把握すること、伝え方を工夫する際に、学生時代の経験がとても活かしていると感じます。今では「プレゼンテーション能力」は、コミュニケーション能力の上達にかかすことのできないものと同人的に感じています。

最後に、目標を。

④自身のキャリアプラン（個人的な）

将来的には、治験をマネジメントするPJリーダーを目指しています。その為に、まずは担当しているPJを通して、真摯に業務に取り組むと共に「治験」について、より理解を深めていきたいと考えています。同時に、先輩の姿を見て、PJマネジメントスキルを向上させて、将来に向けて、着実に準備を進めていきたいと考えています。

日本の「治験」を取り巻く環境は、まだまだ海外に比較して、遅れている状況が多々あります。大それた目標かもしれませんが、キャリアアップと共に、少しでも日本の「治験」の現状を改善できるような発言力を身につけていきたいと考えています。

以上、臨床開発モニターのやりがいや魅力等を個人的な見解を盛り込んでお伝えさせて頂きました。拙い文章で失礼な点多々あったかと存じますが、最後までお読みくださった方、誠にありがとうございました。またこの場を借りて、このような機会を設けて頂きました、富山薬窓会近畿支部 幹事長：宮本 金夫 様にお礼を申し上げます。

2015年6月14日 薬窓会近畿支部総会 於：阪急ターミナルスクエア17F



近畿遠久朶ゴルフのご報告

平成27年度は、平成27年10月2日に「近畿遠久朶ゴルフコンペ」を開催しました。今回は日程調整のうえ、コースを三田ゴルフ倶楽部に移し開催しましたが、予定が合わず7人の参加に終わりました。また、恒例となりました工学部OBの方々との交流の機会として平成27年10月21日の工学部の「仰岳会関西支部ゴルフコンペ」にお邪魔しました。

メンバーの高齢化に伴い、お体の不調を訴えられる方が増えており、多数参加のコンペが困難になっておりますので、春のコンペは仰岳会関西支部ゴルフコンペとの合同開催を考えていましたが、日程が合わず、開催できませんでした。

若い方も参加できるよう、さらなる工夫をしつつ、試行錯誤で開催したいと考えておりますので、ゴルフがお好きな方には気軽にご参加いただきますようお願いします。

57回 西 洋壽
72回 百澤美智留
73回 河村 章裕
(記)

<近畿遠久朶ゴルフの秋季大会> 平成27年10月2日(金曜日) 於 三田ゴルフ倶楽部



成績(敬称略)

	ハンディー戦	ダブルペリア戦
優勝	溝口 正	小野 壽彦
準優勝	石黒 聖啓	益田 拓郎
3位	小野 壽彦	溝口 正

<第7回富山大学工学部「仰岳会」との交流会>
平成27年10月21日(水曜日)
於 茨木高原ゴルフ倶楽部



溝口さん(45回)、益田さん(51回)、河村(73回)が仰岳会関西支部ゴルフコンペに参加させていただきました。天候には恵まれましたが、新ペリア方式でのハンディには恵まれず、益田さんの7位が最高位でした。

芍薬会報告

第13回芍薬会は2016年1月24日(日)、19名の方々に参加いただきました。

この日は、たまたま40年来の大寒波の日とのこと。その寒さには身が縮む思いでしたが、いつもなら長蛇の列に並ぶところを、待ち時間なしという幸運にも恵まれました。

大改修を終えた姫路城は、白鷺城と言われるゆえんはこれぞと思える美しさ。



挿画：逸見誠三郎

ベテランのガイドさんたちの誇り高い案内で、世界遺産のお城をじっくりと見学することができました。

そして、楽しみの昼食は「白雲まこと」で、明石タコのお刺身に新鮮な海の幸、加えて地元の野菜を使ったてんぷらなどに舌鼓を打ちながら、いつものおしゃべりに花を咲かせたひとときでした。

次回は、10月23日(日) 日本新薬株式会社 京都山科植物資料館 でお会いしましょう。そのあとは 醍醐寺雨月茶屋 醐山料理ランチ を楽しみましょう。

女性会員皆様のご参加お待ちしております。

お問い合わせは 吉田 重子 (57回)090-1221-3005

柚本アヤ子 (58回)090-9875-7862

(文責 吉田・柚本)



★事務局より★

今年120年の歴史と伝統ある母学出身の皆様、富山薬窓会近畿支部事務局では支部の運営や行事について、皆様のご意見を広く承りたいと思っています。毎月第三金曜日に開催しています例会“山金会”に参加頂き皆様の生の声を広くお聞きしたいと願っています。山金会は新阪急ホテルのビーズで開催しています。

また、この“きんき遠久柔”の紙面を有効にご利用下さい。

原稿はいつでも受け付けていますのでよろしくお願いたします。

さらに、Eメール等で、

支部長 渡辺: watanabe@peptide.co.jp

幹事長 宮本: k.miyamoto@star.zaq.jp

事務局長 小林: masa_kobak8@yahoo.co.jp

にご連絡下さい。特に近畿支部会員のEメールアドレス一覧表を作成中ですので、皆様のアドレスを事務局までお知らせ下さい。相互の連絡に広く利用したいと思っています。

年会費 (1,000 円以上の募金) について:

会報誌きんき遠久柔の発行と、総会の案内などの諸運営の一助に当てるため、毎年 1,000円以上の年会費を募集しています。このため、総会案内と同時に振替用紙を同封しています。年会費を納めていただいた方には会報誌を送付させていただきます。近畿支部の活動と運営にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。

なお、総会出席者の会費の中には年会費を含ませていただいています。

27年度は総会および郵送してもらった年会費で 39,500円の寄付金をいただきました。

さらに大忘年会で得た 51,640 円を近畿支部運営費に充当することが出来ました。厚く御礼申し上げます。

近畿支部会になって10年以上がたち、大所帯になり、また事業の立ち上げもあり経費も増大しています。先輩がたの篤志による基金の利息は昨今では微々たるものとなっております。基金の取り崩しで補っている次第です。事情をよろしくご賢察下さい。

平成27年度 支部活動

- 近畿支部総会 平成27年6月14日
於:阪急ターミナルスクエア17F
 - 芍薬会(女性会員サークル) 平成28年1月24日(日)
芍薬会は第13回目を迎えました。出席者は 19名で、姫路城を訪れ、世界遺産のお城をじっくりと見学されました。昼食は「白雲まこと」で、明石タコのお刺身に新鮮な海の幸、加えて地元の野菜を使っただんぷらなどに舌鼓を打たれたようです。
 - 山金会(毎月第三金曜日)
於:新阪急ホテル Beets

平成27年	5月15日 / 6月19日 / 7月17日
	8月21日 / 9月18日 / 10月16日
	11月20日 / 12月18日
平成28年	1月15日 / 2月19日
	3月18日 / 4月15日
- ※山金会は、最近集まりが悪くなっています。堀端基金の残金も考え、今後どうするかを考える時期のようです。
- 第4回大忘年会 2015年12月4日
於:新阪急ホテル 地下1階バー「リード」
30名の参加をいただきました。
今年も年末に計画しますので、皆様ふるってご参加下さい。

富山薬窓会近畿支部 収支決算報告書

(2015.4.1 ~ 2016.3.31)

<収入の部>	(単位:円)
支部総会会費 (65 名)	350,000
年会費 (132 名)	132,000
大忘年会 (30 名) 剰余金	52,640
寄付金 (27 名)	39,500
利息 (三井住友銀行)	68
前年度より繰越し	0
基金より繰入れ	657,932
計	1,231,140

<支出の部>	
支部総会費	415,056
きんき遠久柔発刊費	253,800
年会費手数料	13,724
総会案内発送料、その他送料	46,740
旅費	26,860
事務委託費	64,368
山金会補助 (12 回)	111,000
次年度へ繰り越し	299,592
計	1,231,140

近畿支部基金	2016.3.31
三井住友信託銀行	2,529,218
三井住友銀行	1,000,200
計	3,529,418

平成27年度 年会費協力者

32-4	中島 靖介	49-16	山本 昌利	58-19	柚本 寛	68-10	河口 公子
33-3	中野 茂	50-16	川内 美栄	58-20	柚本 アヤ子	69-02	大江 桂子
36-5	前田 傳三	50-18	山崎 慎之助	58-21	米田 行徳	72-01	飯野 年昭
38-6	野田 泰男	51-01	河原 純子	58-24	武久 正子	72-08	百澤 美智留
39-2	大橋 保	51-04	坂本 清則	58-25	鳥居 文子	73-02	河村 章裕
39-4	沼田 美智子	51-06	永岡 道代	58-26	竹内 恵子	74-05	鳩山 輝雄
40-3	人見 五郎	51-07	東 哲郎	58-31	石田 貢	75-02	荒井 実
40-4	森下 恭男	51-08	益田 拓郎	59-01	小野 史郎	76-01	西村 誠
41-1	奥村 隆一	51-09	室井 正之	59-02	小野 むつ子	76-02	安居 輝人
41-2	曾根 良治	51-13	渡邊 和子	59-07	島村 裕子	81-06	由利 紀子
41-4	小西 友義	51-14	肥田 正孝	59-08	田代 眞一	82-04	笹村 崇
41-8	仲野 永二	52-08	一柳 博康	59-14	渡辺 卓司	82-05	由利 良吉
42-1	相方 博文	52-11	野原 一秀	59-15	吉田 篤司	85-02	八尾 篤子
43-1	加藤 秀夫	52-12	野原 優子	59-16	太木 恵美	86-04	山崎 寿明
43-6	長谷 純子	53-01	井上 節子	59-17	原 秀敏	86-08	前川 竜也
43-8	蛭谷 衛	53-11	古家 千代子	59-19	石山 久志	95-01	山口 薫
44-3	川上 四朗	53-16	行本 宏子	59-20	岩井 章洋	99-06	細尾 脩史
44-7	山住 拓一	54-05	菊井 惣	59-26	福地 滋夫	99-12	藤田 樹生
45-03	中林 靖	55-04	持家 照子	60-02	稲崎 恵美子	99-13	森 貴大
45-05	本多 芳明	55-06	近藤 博	60-03	内町 富子	99-14	猪ノ口 裕二
45-07	溝口 正	56-04	木村 正昭	60-04	岡野 美臣	101-03	高橋 佳佑
45-09	吉屋 久雄	56-08	富田 尚子	60-06	小林 正史	101-04	佐藤 香純
45-10	垣見 怜子	56-09	濱島 健二	60-10	竹村 眞知子	102-01	中山 純
46-01	荒木 栄一	56-12	荻野 嘉丈	60-14	宮本 金夫	102-02	中林 雅裕
46-02	石黒 聖啓	56-13	加藤 研治	60-20	姜 仁順	102-03	伊藤 智裕
46-03	島多 史郎	57-05	小野坂 敏見	61-04	豊田 繁	D08	北村 佳久
46-09	森野 行雄	57-09	阪上 優子	61-09	菊地 武夫		
47-02	江川 宏	57-11	西 洋寿	61-10	菊地 みつ子		
47-03	久保 一義	57-14	吉田 重子	62-07	津田 裕子		
47-07	中村 信一	57-16	近藤 正躬	63-01	釜谷 美恵子		
47-11	平尾 元紀	58-03	上田 泰生	63-04	豊田 由紀		
48-05	小野 壽彦	58-04	掛見 佳代子	65-04	穴見 悦子		
48-10	野田 和夫	58-05	勝山 巖	66-14	山本 哲子		
48-12	飯田 晋一郎	58-08	田中 滋雄	67-02	大江 善則		
49-07	武中 正衛	58-10	仲井 慶次	68-02	柏谷 純子		
49-09	中塚 鞠子	58-15	皆川 彰	68-03	中田 孝紀		
49-14	山岡 董	58-18	湯朝 安代	68-07	大辻 万里		

富山薬窓会近畿支部

役 員

(2010年5月23日承認:一部変更あり)

支 部 長	(59) 渡辺 卓司		
副 支 部 長	(71) 西尾 孝	(60) 姜 仁順	
幹 事 長	(60) 宮本 金夫		
事 務 局 長	(60) 小林 正史		
事 務 局	(75) 荒井 実	(76) 西村 誠	
会 計	(59) 原 秀敏		
会 計 監 査	(58) 勝山 巖	(58) 柚本 アヤ子	
山 金 会	(72) 鶴澤 豊	(58) 上田 泰生	
遠久朶ゴルフ	(57) 西 洋壽	(72) 百澤 美智留	(73) 河村 章裕
芍 薬 会	(57) 吉田 重子	(69) 横田 文子	
幹 事	(56) 吉川 和憲 (59) 福地 滋夫 (61) 菊地 武夫 (63) 相坂 一雄 (72) 百澤 美智留	(57) 小野坂 敏見 (60) 竹村 眞知子 (63) 釜谷 美恵子 (63) 横田 弘 (73) 河村 章裕	(57) 阪上 優子 (61) 豊田 繁 (63) 豊田 由紀 (69) 横田 文子
評 議 員	(40) 人見 五郎 (44) 山住 拓一 (46) 森野 行雄 (48) 飯田 晋一郎 (52) 一柳 博康 (56) 萩野 嘉丈	(41) 仲野 永二 (45) 溝口 正 (46) 石黒 聖啓 (48) 小野 壽彦 (53) 菊井 昴	(44) 山崎 昭平 (45) 本多 芳明 (47) 中村 信一 (52) 桂 恵美子 (56) 濱島 健二
顧 問	(36) 堀端 栄之助		

() 内 卒業回数

